

## 減災対策推進特別委員会行政視察概要

- 1 視察月日 令和3年12月22日（水）～12月23日（木）
  
- 2 視察先及び視察事項
  - (1) いわき震災伝承みらい館（福島県いわき市）  
危機意識、防災意識の醸成に向けた取組について
  - (2) 株式会社いわき市観光物産センター（福島県いわき市）  
ライブいわきミュウじあむ「3.11いわきの東日本大震災展」について
  - (3) イオンモールいわき小名浜（福島県いわき市）  
防災モールとしての安心・安全対策について
  
- 3 視察委員  
委員長 尾崎 太  
委員 望月 康弘

## 視察概要

### 1 視察先

いわき震災伝承みらい館（福島県いわき市）

### 2 視察月日

12月22日（水）

### 3 対応者

館長（挨拶及び説明）

### 4 視察内容

#### （1）危機意識、防災意識の醸成に向けた取組について

##### ア いわき震災伝承みらい館について

いわき震災伝承みらい館は、令和2年5月30日に供用開始となり、延べ3万人が来館している。被災を受けた旧豊間中学校の敷地に整備され、展示の中には被災を受けたピアノ（奇跡のピアノ）や黒板なども展示している。

アーカイブ事業では、相当数の写真をHPでも紹介している。語り部事業では17名の語り部の方々が、来館者への講話などを通じて、震災の記憶や体験談を伝えている。来館者の感想では、語り部の講話の評価が高い。

令和5年度には、小学生の防災教育の充実を図るため、バス代を支給することで、より多くの小学生に来館してもらうよう計画している。

##### イ いわき市における災害対策について

長谷川館長は平地区の災害対策本部長も兼務しており、地域防災への取組を推進している。平地区には112区の自治会があり、全区長との面談を通じて、自助の強化の必要性を認識したことや、自助意識の向上のためには、一人一人に具体的な災害対応をどのように理解してもらうかがポイントであり、ハザードマップを配布するだけでは十分とは言えないと述べられていた。

また、平地区では、令和元年の台風第19号において、夏井川が氾濫し死亡者が発生したが、当該エリアのグループホーム（80名入所中）では、施設長の判断により、事前避難を実施し、全入所者を保護することができた事例から、責任者への啓発の必要性を認識したと

のお話をされていた。

#### ウ 質疑概要

Q いわき市における緊急通報システムはどのようなものか。

A ボタンを押すことで、コールセンターにつながるシステムとなっている。ただし、一気にコールが入った場合の対応は困難が予想される。

Q 自助意識を浸透させるために必要なことは何か。

A 行政は自助意識を浸透させるための土壌をつくる役割を担っている。自助意識を浸透させていくためには、地域の自発性により、防災に対する認識を深めていくことが重要である。

行政も適切に初動対応を行うことは容易ではないことから、小さな地域単位で守り合うことが重要である。

#### (2) 委員所見

館長自身が災害対策本部長を兼務しており、震災の伝承という分野にとどまらず、現実的な防災・減災対策に取り組んでいることから、自助意識の向上の重要性を確認することができた。

今後、防災啓発と観光支援をセットにした交流手法などにより、本市といわき市の交流が進むことを期待したい。

また、東日本大震災の経験知と令和元年の台風第19号による河川氾濫の浸水被害時に、緊急通報システム等は災害発生時に通報が集中し、避難行動等につながらず、「いざという時の仕組みは、いざという時に機能しない」とのお話は、自助の重要性を確認した。

語り部による実体験など、伝承未来館を通じた今後の活動に期待がかかる。横浜市民（学生）にも足を運んでいただきたい施設だと実感した。



(いわき震災伝承みらい館内視察)



(いわき震災伝承みらい館 長谷川館長とともに)

## 視察概要

### 1 視察先

株式会社いわき市観光物産センター（福島県いわき市）

### 2 視察月日

12月23日（木）

### 3 対応者

専務（挨拶及び説明）

### 4 視察内容

（1）ライブいわきミュウじあむ「3.11いわきの東日本大震災展」について

#### ア 株式会社いわき市観光物産センター概要

平成9年7月にいわき市の第三セクター方式により開所した。各種テナント、屋内遊び場並びに市の施設である「ライブいわきミュウじあむ」などが整備された。

当該施設のある港湾地区は、アクアマリンふくしま、イオンモールいわき小名浜、小名浜魚市場、小名浜マリナブリッジとともに、国交省の「みなとオアシス」に登録されている。

#### イ 展示概要

平成25年2月から展示を開始しており、被災した子どもたちに笑顔を取り戻すというコンセプトのもと、7つのテーマにより震災直後の様子から、支援の状況、避難所の再現など、震災からの歩みが分かりやすく展示している。

令和2年11月からは、防災を考えるアニメーションや、震災の年に生まれた子供たちの等身大パネルなど、新しい企画も展示している。

#### ウ 質疑応答

Q 自助意識を高めるために必要なことは何か。

A 展示や講和などを通して、自助意識の向上に努めている。

歴史上、震災は必ず発生しており、学ぶことで助かる命が増やしたい。

（2）委員所見

実際に被災した施設や地域の復興プロセスなどが、よく伝わる展示

となっている。子供たちの作文をはじめ、一人一人に光を当てたリアリティーのある展示内容に感銘を受けた。

自助意識の向上は、防災対策の要であることが確認できた。また、今後も行政視察や教育研修などの機会を通じて、本市といわき市のさらなる相互交流の重要性を感じた。

津波被害を受けた実体験から、観光物産センターに併設されている「3.11いわきの東日本大震災展」には、専務の言葉にある「学べることで助かる命がある」「備えることで助かる命がある」が脈々と伝わる。震災伝承施設として大事な施設であると感じた。

震災後、多くの自治体が支援に入った様子も克明に残されているが、中でも大分県警察本部長の次の言葉には感動した。

「人として生まれ、男として育ち、自ら警察官の困難な道を選んだ、その諸君だからこそ預けられた任務である。現場は困窮している。助けを求めている。必ず任務を果たせ。お役に立て。現地では自活を第一とし、被災者以上の処遇を求めてはならない。そして、全員無事に帰任せよ。任務を果たし、全員の無事の帰還を待っている。」

決して忘れてはならないと思う。



(3.11いわきの東日本大震災展の視察)



(いわき市観光物産センター 専務とともに)

## 視察概要

### 1 視察先

イオンモールいわき小名浜（福島県いわき市）

### 2 視察月日

12月23日（木）

### 3 対応者

ゼネラルマネージャー（挨拶及び説明）

オペレーションマネージャー（説明）

オペレーション担当（説明）

### 4 視察内容

#### （1）イオンモール小名浜における安心・安全対策について

##### ア イオンモール小名浜の特徴

当施設は、3.11東日本大震災の前に計画されていたが、被災が発生したことで、設計変更し防災のコンセプトを導入した。津波対応のため、2階レベルを海拔6メートルに設定し、モールの南北に設置したブリッジから入場が出来るようになっている。地震発生時にはドアロックが解除され、避難者の入場が可能である。（24時間対応）

民間施設であるにもかかわらず、防災対応として2階への受水槽の設置、非常用電源、避難誘導案内、マンホールトイレ等の整備をはじめ、防災備蓄品（水・ブランケット・携帯用トイレなど）まで用意されている。

##### イ 地域・行政との関わり

地区ごとに、行政と共同で避難訓練を実施している。その訓練を通して明らかになった課題（避難時間、避難誘導案内など）に対応している。震災対応にとどまらず、期日前投票所やマイナンバーカードの取次窓口など、行政への協力により社会貢献にも尽力している。

##### ウ 質疑概要

Q 防災モールのコンセプトは何か。

A 地域の方々に、モールが避難できる場所であるということを知ってもらおうことが重要であると考えている。



## (2) 委員所見

民間企業でありながらも「一人もモールの中では死なせない」という責任者の言葉が、とても印象に残った。自分を守れるのは自分であるとの視点から、自助の強化が重要であることも認識されている。

復興と防災に強いモールを目指す中で、地域とも良好な関係を構築されており、地域の社会資源になっていることを実感した。

防災に対する企業の姿勢が大事だと思った。震災前に計画されていた商業施設の設計を見直し、地域住民や観光客や従業員の命を守ることを第一に考えたつくりは本市としても参考にすべきところが大いにある。

一度、地域住民を交えた避難訓練も行っているようだが、今後の課題は、いかに震災を忘れず命を守る行動を起こせる人々を地域につくっていくかであろう。



(モール内の柱に掲示されている避難誘導の案内)



(避難場所となる屋上駐車場の視察)